

第3回 大山崎町地域創生推進会議

1. 日時 令和2年2月21日（金）午後2時30分～午後4時
2. 場所 大山崎町役場3階 中会議室
3. 出席者 （委員）北原座長、中田座長代理、青木委員、太田委員、岡委員、尾関委員
加藤委員、小西委員、寺井委員、山形委員、山本和俊委員
（欠席委員）奥野委員、五島委員、野口委員、山本哲司委員、
（事務局）蛭原総務部長、安田政策総務課担当課長、斉藤政策総務課参与、
松尾政策総務課企画観光係リーダー
（委託業者 株式会社日本都市計画研究所：岩溪、久末）

4. 配布資料

- (1) 会議次第
- (2) 【資料1】人口ビジョン（素案）について
- (3) 【資料2】第2期 まち・ひと・しごと創生総合戦略における目標と施策（案）について
- (4) 【資料3】「大山崎町地域創生推進会議開催」日程案（修正版）

5. 概要

1 開会

- 座長あいさつ
- 会議の出席状況の報告、山本哲司委員の紹介
- 傍聴者なし
- 配布資料の確認

2 議事

(1) 人口ビジョン（素案）について

○事務局

【資料1】人口ビジョン（素案）について、説明。

○座長

前回ご承認いただいたB案にそって、今回は住民基本台帳人口をベースに推計し、めざすべき将来の方向や人口の将来展望を追加した素案となっているが、ご意見等いかがか。

○委員

41頁の「利便性が高いため」は「利便性が悪いため」の間違いではないか。

○事務局

ご指摘のとおり、修正する。

○座長

目次の「3-2 めざすべき将来の方向」では「(1)」だけが記載されているが、省いたらどうか。

○事務局

ご指摘のとおり、修正する。

○委員

50 頁に人口の将来展望が記載されており、その実現のための課題や方向が 48 頁、49 頁に記載されていると思うが、48 頁の課題と 49 頁の方向の関係はどう考えれば良いのか。

○事務局

将来の方向の(1)は評価・課題の1番目、2番目、3番目、4番目を受けている。(2)は評価・課題の6番目、(3)は7番目、(4)も7番目、(5)は5番目を受けている。(6)は特に対応していないが、将来の方向の(5)と(6)はあらゆる分野に関わる方向性であり、(6)は国、府の方針と整合したものである。

○委員

評価・課題の○を番号にしてはどうか。

将来の方向の(3)を設定した理由はなにか？

○事務局

今回国の総合戦略では「関係人口」という考え方を提示している。にぎわいを表すひとつとして「関係人口」が位置付けられており、交流人口だけでなく通勤や来訪者等も含めて幅広くとらえられている。

実は国の地方創生総合戦略の第1期の終わりになった今でも、あまり成果が出ていない。「定住」という考え方だけではうまくいかなかったので、定住の前の「関わりのある人」を増やそうという考え方を打ち出してきた。大山崎町でもやがて人口の減少局面が訪れるので、関係人口という考え方を入れた。

○座長

「3-1」は調査結果とその評価・課題であり、「3-2」は今後めざすべき方向なので、その間に飛躍があるのではないか。「3-2」はむしろ「第4章」としたほうが良いのではないか。

○委員

課題と方向がわかりやすいように順番がそろうようにしてほしい。

49 頁の「(1) 大山崎町に安心と快適な暮らしを実現する」のなかに、「誰もが健康で暮らし続けられるまちづくりを進めます」とある。12 頁に死亡の原因が記載されているが、この分析はしたのか。

○事務局

特に分析はしていないが、健康はすべての町民全体として増進を図り、健康寿命の延伸を図るべきと考えて記載している。

○委員

49 頁の記載について意見を述べる。

- (1) の「自然豊かな住環境」については、もっと話題提供を充実させるべきで、過去に災害の教訓があったが、自主防災組織の組織率を高める支援をするべきである。そして、高齢者福祉の増進を図ってほしい。
 - (2) の子育てに関しては、もっとニーズに応えられる環境づくり、女性にやさしい環境づくりを進めるべきだ。
 - (3) のつながりに関しては、共助の仕組みや、町外人口との交流が必要だ。
 - (4) の地域産業については、起業・創業の担い手の発掘が必要であり、空き家・空き店舗を活用して起業・創業塾のようなものを立ち上げてはどうか。
 - (6) の新しい時代の流れについては、情報通信教育の推進が重要だ。
- 以上の内容を参考に検討してほしい。

○座長

今ご指摘いただいたような取り組みを具体化していくのが、これから策定する総合戦略であり、そこへ活かしていくことになる。

○委員

50 頁で独自推計 4 を採用するとあるが、出生率を 2.1 まで高めるというものであり、そのための取組の方向が 49 頁の (2) だと思うが、具体的には記載されていない。出生率 2.1 というハードルは高いが、大丈夫なのか。

○事務局

総合戦略の案でお示しをする予定である。町としても、安心して子育てできるまちを全面的に押し出していきたいと考えている。

○委員

出生率の向上は 1 つの町だけではできないことだ。国も取り組むので町も一緒にやりましょうという趣旨のものだと思う。そういった意味で数値は適正だと思う。先日の町長タウンミーティングで「人口 2 万人の施策を」という若者の意見もあったが、現実的に達成できる範囲が 14,000 人だと思う。

○事務局

出生率の向上は本来、国が責任をもって取り組むべきことだが、国と地方が協力するほうがより効果的であり、そこへ向かっての努力を示すことが重要だと考えている。そのためのソフト対策や連携策等、次回にお示ししたいと思う。ただし、財政資源を投入することにはならないと考えている。

人口問題については出生率を高めるのが基本であり、そのための手を打つとして、一定の推計をしたらこうなるという案をお示ししており、ご理解をお願いしたい。

○委員

49 頁の（４）で「町内総生産の向上をめざす」と記載しているが、20 頁の現状をみると右肩下がりだ。数的にどれくらいをめざすのか。製造業は出入りが大きい。それ以外に何か対策はあるのか。

○事務局

町内総生産については平成 28 年度まで把握している状況であり、目標としては検討しているところだ。主体となる事業所と連携して一体的に取り組む考えだ。

○座長

具体的には、次回の総合戦略で検討していただくことになると思う。

○委員

ダイハツでの新工場建設に期待している。人口増加にもつながるのではないかと。

○座長

大山崎町は住みやすい現状だが、今後は町内の産業活動の活性化も問われていくことになると思う。

人口ビジョンについては本日の皆さんのご意見を反映してまとめたいと思うが、よろしいか。

○委員

島本町や長岡京市などの他市町の状況は参考にしているのか。

○事務局

京都府内市町村で会議等があり、長岡京市は、現行の計画を 1 年延長すると聞き及んでいる。島本町については、状況を把握していない。

○座長

人口ビジョンについて、皆さんのご意見を反映し、まとめるということでよろしいか。

○委員

異議なし。

(2) 第2期 まち・ひと・しごと創生総合戦略における目標と施策（案）について

○事務局

【資料2】第2期 まち・ひと・しごと創生総合戦略における目標と施策（案）について、説明。

○委員

この会議の着地点は何なのか。施策というのであればもっと具体的に示してもらわないと議論できない。あと1回の会議で議論できるのか。

○座長

当初の予定では今回、総合戦略の事務事業あたりまで提示する予定だったが。

○事務局

遅れていて申し訳ない。次回の総合戦略案では具体的な取組みまで示す。事前配布をして、目を通していただいたうえで議論していただきたい。場合によっては、会議を一回追加し開催することをお願いすることもありうると考えている。

○座長

基本目標の4つと横断的目標2つのイメージはどう違うのか。

○事務局

横断的目標は、あらゆる分野にまたがる目標である。

○座長

横断的な手法になるのか、改善策等になるのか。

○事務局

たとえばコミュニティにおける人材を増やすなど、横断的な目標であり、次回はその辺がわかる資料を配布したいと考えている。

○委員

基本目標1の「笑顔」は変えられないのか。ここ何年も使い古されている。

○事務局

本町の基本構想で使われている。基本構想は変更しないので、ご理解を願う。

○委員

施策の内容は具体的になるのか。

○事務局

施策の下に取組を並べる。加えて目標値も掲げる。次回にはお示しする。

○委員

今日の案では出生率を高める施策とはとても思えない。

○座長

「施策」という言葉のレベルはさまざまだが、この下に取組や事務事業があったほうがわかりやすい。

○委員

施策の表現の変更もありうるのか。

○事務局

内部でも検討してきた表現であるし、再検討はするが、的外れな表現とは思っていない。

○委員

この後が見えないのに、これで「良し」とは言えない。

○事務局

次回、案を用意したい。

○座長

皆さんのご意見は反映していく。次回は、資料を事前配布するので検討していただきたい。

そのほかに何かご意見はあるか。

では一応この形でご了解いただいたということにさせていただきたい。

(3) その他

○事務局

【資料3】大山崎町地域創生推進会議開催日程（修正版）について、説明。

○座長

他になければ以上で会議を終了する。

3 閉会

以上